

日本看護歴史學會 會報

日本看護
歴史学会
第65号
2016年1月15日

いのちを守る専門職として歴史研究者として未来に繋ぐもの

日本看護歴史学会理事長 川嶋みどり



川嶋みどり理事長

会員みなさまにとって希望の持てる年でありませう祈り、年頭のご挨拶を申し上げます。

日本の看護教育草創期から130年、その丁度半分の年月を看護とともに歩み続けて参りました。この間ずっと看護の社会的有用性と可能性を信じて来たのですが、今、その看護が、本来の道から外れるような流れへの危惧感を持っています。看護系の大学は増え続け、専門誌の特集やみだしに飛び交う言葉からは、看護の今も行く末も順風満帆のように受け取れます。でも、看護師が直面している日々の状況とはかなり乖離しているのではないかと違和感を感じることも少なくありません。高度医療、超高齢化、地域包括ケアなど、看護の役割がますます期待される一方、看護に専心できにくい職場環境は、看護師のアイデンティティに影響をもたらし、看護の受け手の方達の失望やあきらめにも通じかねない状況を生んでいるのです。医療・看護の大前提に安全性があることは勿論ですが、その「医療安全」の名のもとに、患者の尊厳を脅かす事象が後を絶たないことを重視する必要があります。過密な労働環境では達成感が得られず、心身ともに疲弊している看護師の姿も確かにあり、個人の努力や心がけでは解決できない面も理解できます。しかし、看護は、人間を相手の仕事です。病気や手

術や認知レベルの如何に関わらず、その方が尊厳をもって人間らしく自分らしく生きていくことを支援する責務があります。専門職を自負するなら、心身の不具合や障害の如何を問わず、ごく普通の日常的な営みを送ることの価値づけに基づく支援を惜しんではならないはずです。

一方、健康であっても尊厳ある生き方を脅かすのが戦争であり災害等であることは、既に歴史が実証済みです。ところが、その歴史の事実を真摯に知る姿勢から外れた重大な意思決定が、十分な論議を抜きに強行され法制化されたことを忘れるわけには参りません。平和という言葉だけを掲げながらその真逆の道への歴史的転換であったことに、不安を感じた多くの人々がいました。思想信条の如何に関わりなく、かつてない運動を盛り上げたことも昨年の大きなできごとでした。また、核廃棄物処理の目途のつかないまま、全国各地で原発の再稼働の動きが進んでいることにもどう向き合うべきか。いのちを守る専門職としての看護師が、それら一連の動きに対して傍観し続けたり、沈黙してよいはずはないと思います。加えて、歴史研究者として、個々の事象に関心を持ち記述することを止めてはならないと思います。

第29回学術集会（札幌）でのシンポジウムでは、「繋ごう看護の歴史を現在から未来へ」と題して、経験の差異を超えて看護への夢が語られました。内容は学会誌を参照して頂くとして、胸張って未来に看護の歴史を繋ぐために、この複雑な時代に生きる看護師として何をなすべきかが問われているのではないのでしょうか。今年8月に開催予定の第30回学術集会（松戸市）は、「看護基礎教育での看護歴史教育のあり方」です。奮って参加し、看護師として歴史研究者としてのあり方を未来に繋ぐために意見交換を深めましょう。

日本看護歴史学会第30回学術集会の開催にあたって

聖徳大学 日下修一

日本看護歴史学会第30回学術集会は平成28年8月20日（土）・21日（日）の2日間、千葉県松戸市の聖徳大学で開催予定です。松戸は『野菊の墓』の舞台であり、様々な歴史的施設が存在しています。聖徳大学から徒歩10分ほどの場所に戸定が丘歴史公園があり、公園内には水戸藩最後の藩主・徳川昭武が建てた戸定邸(国指定重要文化財)と庭園(国指定名勝)、徳川昭武と彼の兄徳川慶喜の資料を展示する戸定歴史館、お茶室の松雲亭があります。また、松戸には江戸川を挟んで矢切(千葉県松戸市)と柴又(東京都葛飾区)を結ぶ矢切の渡しがあります。柴又は寅さんで有名な柴又帝釈天がある地域であり、東京と隣接している松戸を是非訪れてください。交通の便は常磐線快速を使えば、上野から20分、東京駅から25分ほどの距離です。

本大会のテーマは「看護基礎教育での看護歴史教育の必要性ー看護医療の差別の歴史をどう教えるかー」としました。看護基礎教育では看護の歴史が必修科目としては指定されていませんが、看護歴史教育の必要性は高いと考えます。また、私の専門が精神看護・アディクション看護・司法看護であることから、看護・医療の分野で様々な差別や偏見が存在している事も意識しています。看護職は偏見や差別意識を持つことが倫理的に問題であると考えられますが、同時に、様々な現場で差別意識、偏見に基づく看護が存在していると考えられます。私は精神看護を教育する中で、そのことを意識しながら、精神看護の歴史を教えることにより、如何にして我々が精神障害者に偏見を持ってきたのか、自分自身の偏見をどう扱ったら良いのかを学生に伝えてきました。一般社会からの差別や偏見というものは昔の看護者にも向けられており、看護

職自体が虐げられてきた事実が存在します。看護職は歴史的には、差別する側でもあり、差別される側でもあったと考えられます。こうした倫理的問題の切り口として、看護歴史教育は必要であると考えます。そうした点も踏まえて、今回の大会テーマを決めさせていただきました。

具体的なプログラムとして、大会長講演は「精神医療に見る差別意識の形成ー精神看護での看護歴史教育の必要性」、特別講演「ハンセン氏病患者へのケアについて」国立療養所多摩全生園 森田宏子師長、「特定行為研修の現状」自治医科大学看護師特定行為研修センター 村上礼子教授、教育講演「教育史関連」聖徳大学増井三夫副学長、シンポジウム「看護歴史教育の必要性」川嶋みどり(日本赤十字看護大学)、丸山マサ美(九州大学)、他、座長：刀根洋子(目白大学)などを予定しています。今後、教育講演、市民公開講座などを追加する予定です。詳細につきましてはホームページ www.kanreki30.umin.jp に順次公開していきますので、ご確認願います。



第30回学術集会プログラム

日時：2016年8月20日（土）・21日（日） 会場：聖徳大学

テーマ：「看護基礎教育での看護歴史教育の必要性—看護医療の差別の歴史をどう教えるか—」

日 時	プ ロ グ ラ ム		会 場	
8月20日 (土)	10:30～11:30	大会長講演	「精神医療に見る差別意識の形成 —精神看護での看護歴史教育の必要性」 日下修一（聖徳大学）	第1会場
	11:40～12:40	教育講演 I	「教育史（史料研究法）」 増井三夫（聖徳大学副学長）	第1会場
	12:50～13:30	昼 食	総会	第2会場
	13:40～14:40	特別講演	ハンセン氏病患者へのケアについて 森田宏子（国立療養所多摩全生園）	第1会場
	14:50～18:00	シンポジウム	看護歴史教育の必要性 川嶋みどり（日本赤十字看護大学）、丸山マサ美（九州大学）、他 座長：刀根洋子（目白大学）	第1会場
	13:40～18:00	交流セッション・理事会企画		第2会場
	13:40～18:00	口演・示説		第3・4会場
	10:30～18:00	パネル展示		第5会場
	18:30～20:00	懇親会		
8月21日 (日)	10:30～11:30	特別講演 II	特定行為研修の現状 村上礼子（自治医科大学看護師特定行為研修センター）	第1会場
	11:30～12:30	昼食		
	12:30～13:30	市民公開講座（予定）		第1会場
	10:30～13:30	交流セッション・理事会企画		第2会場
	10:30～13:30	口演・示説		第3・4会場
	10:30～13:30	パネル展示		第5会場
	13:40～14:40	次期大会長挨拶		第1会場

日本看護歴史学会第29回学術集会を終えて

第29回学術集会会長 城丸瑞恵

日本看護歴史学会第29回学術集会は、2015年8月22日（土）23日（日）に札幌で開催いたしました。全国各地から約170人の方々が参加してくださり無事終了いたしました。これも会員およびご参加くださいました皆様のおかげと心よりお礼申し上げます。

さて、本学術集会のテーマは「歴史学の可能性と未来—空間と時間を越えて」でした。シンポジウムは「繋ごう！看護の歴史を現在から未来へ」をテーマに、看護学生、2年目の看護師、中堅看護師、そして川嶋みどり先生をシンポジストに開催し、後進に伝えたい看護の心・技術、そして先輩から受け継いだことについて語っていただきました。参加者からは「川嶋先生の視野の広さや若いシンポジストの感性に感激した」との感想をいただきました。教育講演は2つ行いました。1つは、札幌市立大学の羽深久夫先生に、「世界遺産の歴史学的意義—建築学史の視点から」をテーマに、建築物の歴史について、豊富な写真を用いてお話いただきました。もう一つは、テーマ「語り継ぐ北海道の医療の歴史と未来：開拓地における女性

の役割～インマヌエル村の荻野吟子の足跡をたどりながら」のもと、日本医療大学の林美枝子先生に、荻野吟子に焦点を当てたお話をしていただきました。どちらの講演も新たな発見に気づく充実したお話でした。特別講演のⅠでは「北海道アイヌに伝わる健康の知恵」をテーマに、アイヌ語講師の関根健司さんに、Ⅱでは、「命をつなぐ動物園—明治期からの取り組みと現在、そして未来へ向けた発展へ」と題し、札幌円山動物園飼育員の朝倉卓也さんに、動物園の歴史の変遷などについてお話いただきました。特別講演には一般の方々も熱心に参加され、聞き入っている姿が印象的でした。そのほか、理事会セッションでは、「戦争と看護」「看護師の特定行為」「看護史の研究方法」をテーマに据えて参加者と共に熱い討論が行われ、懇親会では、北海道に関わるクイズを行い、大いに盛り上がりました。

至らない点が多々あったと思いますが、皆様のあたたかい励ましやお心遣いをいただきながら、事務局・実行委員にとって充実した2日間になりました。感謝申し上げます。



連載 授業で歴史を教えよう (2) 少人数の「基礎ゼミ」で学ぶ看護歴史

日本赤十字看護大学 山崎裕二

本学には1年次の必修科目に「基礎ゼミ」があり、主に一般教育の先生方が担当しています。私のゼミでは2008年度から看護歴史に関する資料の収集・読解の演習を行っています。ここ数年は「ハンセン病看護史」をテーマにしていました。ハンセン病療養所の入所者の手記を読みながら看護婦や看護人（男性）に関する記述を探し出し資料集としてまとめてきました。ゼミの最終回は、国立ハンセン病資料館（東村山市）に見学に行き、看護学生のための特別講義（元患者の佐川修さんのお話）を聴いた後、展示を見ることが恒例行事となっていました。2011年8月の本学会・沖縄学術集会の時は、その2日前に自由参加の学生と一緒に沖縄愛楽園（名護市）を見学し、入所者の方から体験談を聴き、看護師の方に園内を案内してもらいました。ゼミで看護歴史を学ぶときは文書資料の理解だけでなく、フィー

ルドワークで現地を実感することを重視しています。今年度は、戦後70年を意識して、「太平洋戦争における国内の看護婦の体験」というテーマで、大学図書館、都立中央図書館、赤十字社情報プラザ図書室での資料収集を行い、現在、読みながら資料集の編集作業を行っています。1月末には復興記念館（墨田区）に行く予定です。（写真は2015年12月2日に赤十字情報プラザ入口で学生の一部を撮ったものです。）



六史学会報告

日本看護歴史学会副理事長 岡山寧子

2015年12月12日（土）、毎年恒例の六史学会合同12月例会が順天堂大学にて開催された。6つの医療系等の歴史学会の合同例会ということで、洋学史学会からは「佐賀薬種商野中家所蔵解剖書について」（青木歳幸氏）、日本医史学会は「日本における外科のあけぼの—その余話」（森岡恭彦氏）、日本薬史学会は「三重県の本草学者・丹波修治」（川村典久氏）、日本獣医史学会では「義犬」の歴史と動物愛護史」（小佐々学氏）、日本歯科医史学会では「石濱義則—治安維持法違反で広島刑務所服役中に被爆したクリスチャン歯科医—」（樋口輝雄氏）と、いずれも興味深い発表を聞くことができた。あわせて、色々な立場からの質問等、とて

も活発な意見交換がなされた。本学会からは、岡山が「同志社と看護教育—そのバックボーン—」というタイトルで、京都看病婦学校の設立者新島襄やその後継者佐伯理一郎の看護職育成への志、そしてそこで開始された先進的な看護教育について簡単に紹介した。また、日本歯科医史学会の樋口氏が「石濱義則」を発表した後に、石濱氏のお嬢さん（石浜みかる氏）がお父様の思い出を語られた。その中で「『この世の力に流されてはいけない』という父の生前の言葉をくり返し心に刻んでいる。」というお話しはとても印象深く、心に残るものであった。今回、初めて参加したが、医療系等の歴史学会での研究活動の一端を知る場、看護歴史研究活動を伝える場、また分野を越えて幅広い意見交換ができる場として、とても意義ある合同例会であることを実感した。

学会ホームページをリニューアル、Facebook立ち上げました

広報委員会 三上れつ 川原由佳里 情報システム委員会 日下修一

いつも日本看護歴史学会のホームページにアクセスいただき、ありがとうございます。この度ホームページをリニューアルし、Facebookを立ち上げました。会員のみならずにより快適にホームページを使っていたけように、情報を整理し、分かりやすく見やすいレイアウトにしました。看護の歴史を目で見ることが出来る写真も掲載しています。

Facebookではよりタイムリーな情報を発信してまいります。今後もいっそう充実させていきますので、引き続きよろしくお願いたします。

ホームページ：<http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/>

Facebook：「日本看護歴史学会 facebook」で検索



新入会員紹介(敬称略)

* () 内は会員番号 平成27年6月～平成27年11月入会
 和田 佳子 (15023) 佐藤 幹代 (15024)
 道順るみ子 (15025) 大川真紀子 (15026)

お知らせ

■事務局から

平成27年度会員動向(平成27年11月末現在)

- | | |
|---------|------|
| 1. 会員数 | 357名 |
| 2. 入会者数 | 26名 |
| 3. 退会者数 | 7名 |

会費納入のお願い

今年度の総会で会則が変更となり、会費滞納による会員資格喪失の期間が3年間から2年間となりました。年会費をまだ納入されていない会員の方は第65号に同封しております払込取扱票にて納入をお願いいたします。その際、住所・氏名のご記入をお願いします。

所属・住所変更や退会の場合

ホームページの事務局の「変更・退会届」からダウンロードしていただき、事務局宛にご提出ください。

学会誌投稿論文の送り先

投稿論文に送り先は事務局ではなく、編集委員会となつ

ておりますので、お間違えのないようお願いいたします。送り先は、〒182-8570 東京都調布市国領町8-3-1 東京慈恵会医科大学医学部看護学科 田中幸子(日本看護歴史学会誌編集委員会)です。

編集後記

平成も28年目となり昭和がますます遠くなりました。つい最近のこととは思わず、丁寧に歴史を残すことの大切さを感じています。(ゆ)

日本看護歴史学会会報 第65号

企画・編集 川原由佳里(日本赤十字看護大学)
 三上れつ(中部大学)

発行責任者 鷹野 朋実(事務局会報担当)

印刷 有限会社 新和印刷

事務局 〒150-0012
 東京都渋谷区広尾4-1-3
 日本赤十字看護大学
 鷹野 朋実
 TEL 03-3409-0190
 FAX 03-3409-0589(代表)
 e-mail t-takano@redcross.ac.jp

学会HP <http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/>